

授業科目名[英語名]						
科学教育入門[An introduction to science education]						
担当教員名[連絡先(TEL,研究室など)]						
松野修[099-285-7292]						
E-Mail	Matsuno036@life.kagoshima-u.ac.jp	受講対象		全学部		
課程区分	共通教育	学科/科目・分野等	教養 導入	開講期	後期水曜 2	単位等 2
共同担当教員名						
教育目標のキーワード						
視野・判断力・探求能力/コミュニケーション能力と相互理解						
学習目標(学生の達成 目標)						
<p>科学史・科学教育の歴史に基づいて、教養教育としての科学教育の意義を説明できる。 講義で学習した内容を他人に的確に伝えることができる。 講義の進行に伴って学生同士で円滑なコミュニケーションを図ることができる。</p>						
授業概要(目的・内容・方法)						
<p>科学はもともとは「人びとの楽しみごと」として、「最高の知的エンターテイメント」として発展してきた。当初は時間や経済にゆとりのある上流階級しか「たのしみごととしての科学」を享受できなかったが、1700年代になると、ヨーロッパの各地で「巡回科学講師」が活躍をはじめめる。この授業では、こうした「たのしみごととしての科学の伝統」を体験し、科学史、科学教育の歴史を理解する。</p>						
授業計画(15回に分けて、回数、日付、授業内容、授業外活動など)						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学と科学教育の歴史 2. 仮説実験授業と科学史・科学教育 3. 分子模型づくり(1) 空気の分子 4. 分子模型づくり(2) アルコールの分子 5. 分子模型づくり(3) オキシ酸の分子 6. 分子模型づくり(4) プラスチックの分子 7. 親子向け分子模型講座の紹介 8. 1600年代の公開科学実験の再現 真空実験 しゅぼしゅぼ 9. 1700年代の公開講座の再現 静電気実験 びりりん 10. 1800年代の公開科学講座の再現 もくもく 11. 公開科学講座の復活の試み 大道仮説実験ワークショップの紹介 12. 分子模型づくり(5) 氷の分子 13. 成熟経済時代における教養教育としての科学教育 14. 皿まわし組織論 皿まわしをしながら組織について考える 15. まとめ たのしい科学の伝統 						
受講要件	受講者は35人に限定。受講希望者は事前に「わたしの考える楽しい授業」というテーマのレポートを提出のこと(A4一枚以内)。					
評価基準および方法	講義がひとくぎりつく毎にレポートを提出する(毎回10点×10回)。					
教科書	指定せず。	参考書		講義の中で適宜、紹介する。		
授業時間外対応(オフィスアワー、授業後、学習シートなど)	【ワイアワ】毎週金曜午後6時から、生涯学習教育研究センター演習室で自主ゼミを開いている。 【メール・HP】matsuno@life.kagoshima.u.a.jp【その他】生涯学習教育研究センターのブログ http://blog.livedoor.jp/lifelong_kadai/ でもこの講義に関連する活動を公開している。		その他			